【K農園におけるアスパラガス比較試験】

実証経過

産　地　　：島根県大田市

圃場の特長：■2021年、GE･ビガー®散布・無散布のビニールハウスを設定し試験を開始

■2022年は比較するハウスを相互に入れ替え実施

■無散布で斑点病が発生したハウスにGE･ビガー®を散布

■2021年散布ハウスは無散布としたが、3列の内最左列は散布することとした

（１）2年連続散布の効果確認

（２）他の2列は前年散布残効確認

■連作障害（アレロパシー障害）の経年確認(2年目)

■病害確認及び収量確認

GE･ビガー®散布時期　　：2022年4月

収穫時期　　：2022年5月28日

ＧＥ･ビガー®散布ハウス外観

Environment E&M Co., Ltd. All Rights Reserved.

経過観察

■実証試験の概要

2021年、GE･ビガー®散布・無散布のビニールハウスを設定し試験を開始し、翌年は比較するハウスを相互に入れ替え実施

・無散布で斑点病が発生したハウスにGE･ビガー®を散布
・散布ハウスには無散布としたが、3列の内最左列は散布とし（目的:(1)2年連続散布の効果確認　(2)他の2列は残効確認）
・連作障害（アレロパシー障害）の経年確認(2年目）
・病害確認及び収量確認

■散布方法

・2021年同様、点滴灌漑により毎月1回定期的に散布する
・2021年同様、葉面散布を毎月1回実施している

■作業の進捗

・2020年まで成育及び収量が思わしくなく、効果の程は未知であったが、何かしらの効果を期待し以下の改善策を施している
・2021年畦面消毒及びハウス締切・春芽収穫・灌水等を進め、4月よりGE・ビガー®の灌漑散布を開始した毎月1回地表面から浸透させる形で追加している
・本年も、同様の形で春芽収穫・立茎・追肥・防除等を行い現在夏芽収穫期に入っている

Environment E&M Co., Ltd. All Rights Reserved.

散布ハウス 2022.7.30撮影

【7月末現在日々管理されており、葉態は安定して風通しの良い状態で刈り込まれている。立茎のバランスも整っている。酷暑下でも葉先の枯れが見受けられず、夏芽は薄緑色で手触りも良く柔らかそうに見受けられる。】

無散布ハウス 2022.7.30撮影

【最左列のみ今年もGE・ビガー®を散布している。他の2列は無散布となっているが昨年散布の残効がある様だ。継続的に確認が必要。葉揃い、立茎、発芽の状況は、散布ハウスに遜色ない成育が確認できる。】

Environment E&M Co., Ltd. All Rights Reserved.

【アスパラガス生育状況の散布/無散布 比較試験（K農園)【 総括】

実証場所：島根県大田市
実証期間：2021年4月～継続中
実施内容：アスパラガスによるGE・ビガー®の効果確認
実施者　：株式会社地球環境EDジャパン

■栽培条件
・土壌改良材GE･ビガー®を散布したものと無散布のものとを比較する
・比較するハウスを前年と相互に入れ替え試験を実施

■栽培方法
・ JAアスパラ部会作成の肥料ごよみによる（非公開）

■生産者様による総括

視点
今年は、対象ハウスを逆にした
①昨年GE・ビガー®無散布のハウスに斑点病が発生しており､今年､罹患状況を確認する。
②昨年散布したハウスでは1列のみ再散布を行い様子を観察する
③残りの2列において、病害の確認と残効の様子を見る
・現在、真夏の暑い時期に収穫量が落ちる時期でもあるが、全く落ちることなく収穫されている
・アスパラガスは太く変形が少なくなっている。また、先端が開くこと無く大きくなっている
・手触りがよく、やわらかい薄緑色の作物となっている
・特に地表散布を丁寧に行い、葉面散布も行っている
・現状、病害は発生していない

考察
・収量が上がり、病害の兆候はなく堅調に推移している
・注目は、昨年GE・ビガー®を散布し今年無散布の2列について、残効があるのではないかと考えており、今後の推移を確認していきたい
・また、昨年斑点病に罹患したハウスでの推移を確認したい
　高温化での葉枯を確認しておらず、勢いのある樹勢となっている

今後の課題
・耐病性の状態を確認する（斑点病・茎枯れ病など）
・連作障害確認の2年目となるが発芽、枝張りの状況共に観察する
・収穫終了までの各条件における成果確認を行う

最左列GE･ビガー®散布畦面状況

無散布畦面状況

Environment E&M Co., Ltd. All Rights Reserved.